（２）－１【建議案 p101 設問4】

設問４　教員免許を取得しようと思った理由として当てはまるものは、次のうちどれですか。【３つまで回答可】

項　目	回答数	回答者数に対する割合
1 資格とし、将来どこかで生かせるかもしれないから	124	55%
2 職業選択を拡げるため	90	40%
3 教員の仕事に魅力を感じ、教員を目指しているから	85	38%
4 職業教育に携わる仕事に魅力を感じ、教員を目指しているから	39	17%
5 給与や福利厚生に魅力を感じ、教員を目指しているから	19	8%
6 自分の強みや能力を生かせると感じ、教員を目指しているから	37	16%
7 今まで出会った先生への憧れがあり、教員を目指しているから	76	34%
8 大学の教員のすすめ	2	1%
9 保護者のすすめ	31	14%
10 出身高校の教員のすすめ	34	15%
11 友人・先輩のすすめ	4	2%
12 なんとなく	16	7%
13 その他	5	2%

回答者数：225名

大学生・大学院生が教員免許を取得しようと思った理由として、「資格とし、将来どこかで生かせるかもしれないから」と回答した割合が約 55%と最も高く、次いで「職業選択を拡げるため」が約 40%、「教員の仕事に魅力を感じ、教員を目指しているから」が約 38%となっている。

（２）－２【建議案 p100 設問1】

設問１　職業選択において重視するものは、次のうちどれですか。

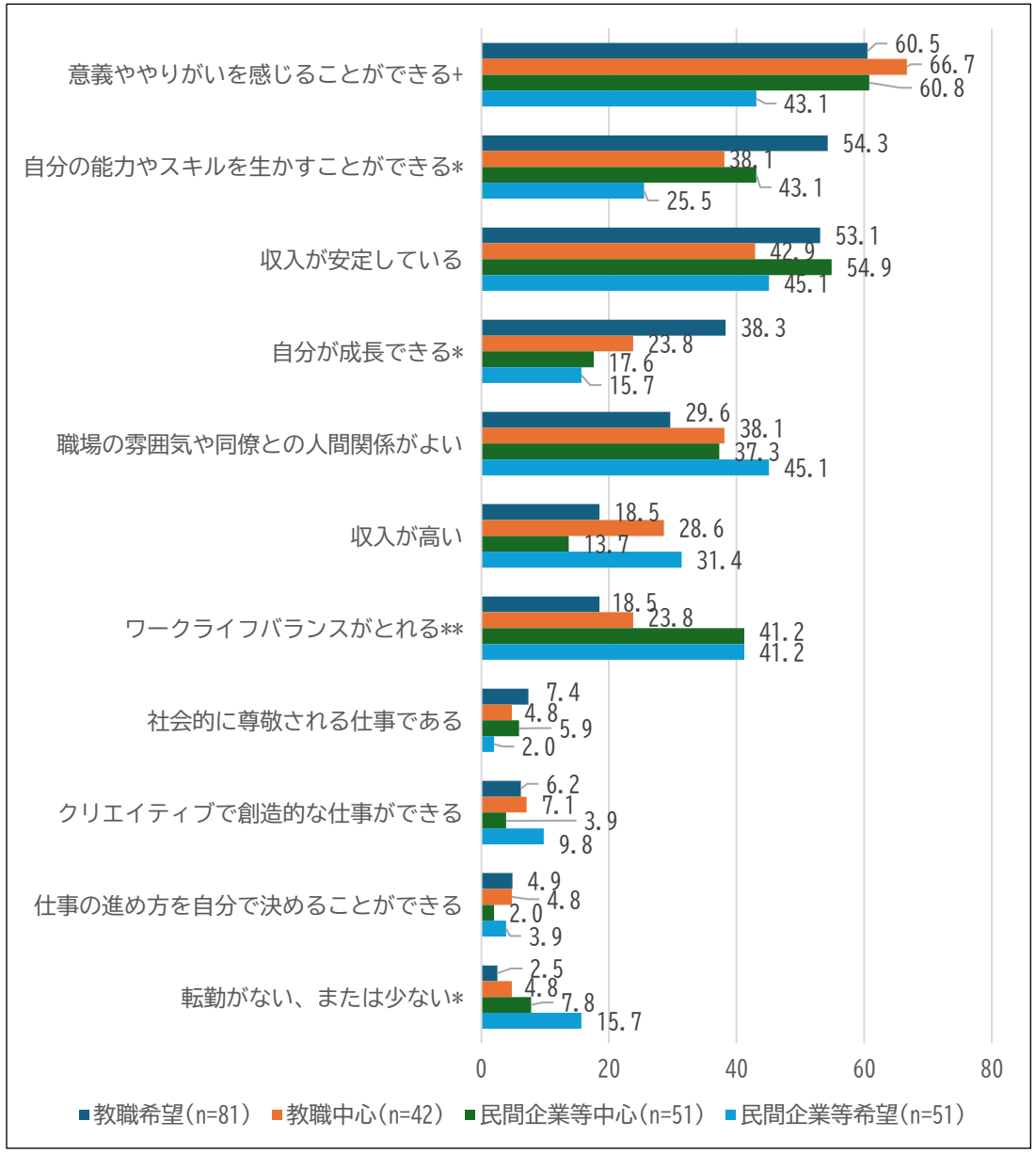
【３つまで回答可】

項　目	回答数	回答者数に対する割合
1　自分の能力やスキルを生かすことができる	95	42%
2　自分が成長できる	58	26%
3　意義ややりがいを感じることができる	130	58%
4　仕事の進め方を自分で決めることができる	9	4%
5　クリエイティブで創造的な仕事ができる	15	7%
6　収入が安定している	112	50%
7　収入が高い	50	22%
8　ワークライフバランスがとれる	67	30%
9　社会的に尊敬（感謝）される仕事である	12	5%
10　職場の雰囲気や同僚との人間関係がよい	82	36%
11　転勤がない、または少ない	16	7%
12　クレームへの対応がない、または少ない	2	1%
13　その他	0	0%

回答者数：225名

大学生・大学院生が職業選択において重視するものは、「意義ややりがいを感じることができる」と回答した割合が約 58%と最も高く、次いで「収入が安定している」が約 50%、「自分の能力やスキルを生かすことができる」が約 42%となっている。

（２）－３【建議案 p51 図30】



教職希望（A群）

民間希望（B群）

** p<.01　* p<.05　+ p<.10

図 30　職業選択において重視する事項（%）

（２）－４【建議案 p104 設問7】

設問７　職業学科の教員として働く場合、あなたが不安に思うこととして当てはまるものは、次のうちどれですか。【５つまで回答可】

項　目	回答数	回答者数に対する割合
1 自分の能力やスキルが不足している	160	71%
2 校内における初任者へのサポート体制がうすい	47	21%
3 教育者に対する社会の目線が厳しい	41	18%
4 現場の教員の自己決定権が少ない	20	9%
5 生徒の人格形成に関わる責任が重い	78	35%
6 実習が多く、生徒の安全に関わるリスクが大きい	61	27%
7 資格指導や各種コンテスト等の指導が大変である	47	21%
8 産業界の関係者への対応が大変である	16	7%
9 生徒指導による業務が多忙である	77	34%
10 休日出勤や残業が多く多忙である	116	52%
11 異なる学科間ではチームワークが保ちにくい	27	12%
12 給料が多忙さや責任に見合わない	94	42%
13 遠隔地への転勤がある	57	25%
14 寮の宿直、生活指導が大変である	25	11%

回答者数：225名

職業学科の教員として働く場合、不安に思うこととして当てはまるものは、「自分の能力やスキルが不足している」と回答した割合が約 71%と最も高く、次いで「休日出勤や残業が多く多忙である」が約 52%、「給料が多忙さや責任に見合わない」が約 42%となっている。

（２）－５【建議案 p100 設問2】

設問２　就職活動全般において、情報収集や相談をする際に重視している情報源は、次のうちどれですか。【複数回答可】

項　目	回答数	回答者数に対する割合
1　大学の教職課程の教員	116	52%
2　ゼミ教員など、教職課程以外の教員	69	31%
3　大学のキャリアセンターや就職支援室など	74	33%
4　就活イベントや企業の説明会など	81	36%
5　就活支援サイトなどのインターネット上の情報	66	29%
6　仕事の様子を紹介した資料やパンフレット	56	25%
7　SNS（Instagram、X、Facebookなど）	49	22%
8　家族	62	28%
9　友人や先輩など	78	35%
10　出身高校の教員	72	32%
11　テレビや新聞などのマスメディア	14	6%
12　その他	0	0%

回答者数：225名

大学生・大学院生が就職活動全般において、情報収集や相談をする際に重視している情報源は、「大学の教職課程の教員」と回答した割合が約 52%と最も高くなっている。

（２）【専門高校の教員確保】“今後の提案”

１　民間企業の就活スケジュールに基づくアプローチ

２　抜本的な教員の働きやすさを実現するための取り組み

（３）【産業界との連携】に関する取組

（３）－１【建議案 p105 冒頭の表】

○　あなたの事業所の産業分類を教えてください。【１つのみ選択】

項　目	回答数	回答者数に対する割合
A　農業、林業	6	2.7%
B　漁業	0	0%
C　鉱業、採石業、砂利採取業	0	0%
D　建設業	116	51.8%
E　製造業	29	12.9%
F　電気・ガス・熱供給・水道業	6	2.7%
G　情報通信業	5	2.2%
H　運輸業、郵便業	3	1.3%
I　卸売業、小売業	23	10.3%
J　金融業・保険業	3	1.3%
K　不動産業・物品賃貸業	2	0.9%
L　学術研究、専門・技術サービス業	2	0.9%
M　宿泊業、飲食サービス業	4	1.8%
N　生活関連サービス業、娯楽業	1	0.4%
O　教育、学習支援業	1	0.4%
P　医療、福祉	11	4.9%
Q　複合サービス事業	0	0%
R　サービス業（他に分類されないもの）	11	4.9%
S　公務（他に分類されるものを除く）	0	0%
T　分類不能の産業	1	0.4%

回答者数：224名

※日本標準産業分類（令和５年７月告示）による

（３）－２【建議案 p108 設問5】

設問５ 専門高校と連携したいと思いますか。【1 つのみ選択】

項　目	回答数	回答者数に対する割合
1 積極的に連携したい	100	45%
2 依頼があれば連携したい	55	25%
3 特定の条件を満たせば連携したい	37	17%
4 関心はあるが連携までは難しい	21	9%
5 連携したくない、または連携の必要性を感じていない	2	1%
6 分からない	9	4%

回答者数：224名

専門高校との連携について、「積極的に連携したい」と回答した割合が約 45%と最も高く、次いで「依頼があれば連携したい」が約 25%、「特定の条件を満たせば連携したい」が約 17%となっている。

（３）－３【建議案 p108 設問6（企業）】

設問６　連携の効果として期待するものとして、当てはまるものは、次のうちどれですか。【複数回答可】

項　目	回答数	回答者数に対する割合
１　生徒が先端技術に触れ、業界や技術への興味が高まること	87	41%
２　職業や企業に対する教員の理解が深まること	103	48%
３　企業のイメージアップにつながること	112	53%
４　学校の教育活動に対する社員の理解が深まること	38	18%
５　生徒のアイデアや発想を参考にできること	28	13%
６　生徒に業界や自社をPRできること	137	64%
７　将来の人材確保につながること	184	86%
８　その他	4	2%

回答者数：213名

専門高校との連携による効果として期待するものは、「将来の人材確保につながること」と回答した割合が約 86%と最も高く、次いで「生徒に業界や自社を PR できること」が約 64%、「企業のイメージアップにつながること」が約 53%、「職業や企業に対する教員の理解が深まること」が約 48%となっている。

（３）－４【建議案 p95 設問7（教員）】

設問７　企業等の専門家による授業や企業等での現場実習など、高校と産業界等との連携による効果として期待するものは、次のうちどれですか。

【複数回答可】

項　目	回答数	回答者数に対する割合
1　勤労観・職業観の育成	120	70%
2　専門教科・科目の学習意欲の向上	90	53%
3　専門的な知識や技術の習得	92	54%
4　言葉遣いやマナーの習得	78	46%
5　伝える力や聴く力など、コミュニケーション能力の向上	81	47%
6　生徒が最新の設備や先端技術に触れることができる	98	57%
7　職業や企業に対する教員の理解が深まること	60	35%
8　その他	2	1%

回答者数：171名

企業等の専門家による授業や企業等での現場実習など、高校と産業界等との連携による効果として期待するものは、「勤労観・職業観の育成」と回答した割合が約 70%と最も高く、次いで「生徒が最新の設備や先端技術に触れることができる」が約 57%、「専門的な知識や技術の習得」が約 54%、「専門教科・科目の学習意欲の向上」が約 53%となっている。

（３）－５【建議案 p96 設問9（教員）】

設問９　企業等との連携に当たって、何が必要だと思いますか。【複数回答可】

項　目	回答数	回答者数に対する割合
1　高校側の情報やニーズの積極的な発信	42	25%
2　双方の信頼関係やコミュニケーション	92	54%
3　スケジュール調整における高校側の柔軟性	53	31%
4　生徒の意欲や態度	60	35%
5　生徒の安全管理体制	24	14%
6　連携による効果の検証と見える化	30	18%
7　連携に携わる人材の確保	63	37%
8　連携に充てる時間の確保	83	49%
9　予算の確保	99	58%
10　取組の継続性	55	32%
11　その他	4	2%

回答者数：171名

企業等との連携に当たって、何が必要だと思うかについて、「予算の確保」と回答した割合が約58％と最も高く、次いで「双方の信頼関係やコミュニケーション」が約54％、「連携に充てる時間の確保」が約49％、「連携に携わる人材の確保」が約37％となっている。

（３）－６【建議案 p109 設問8（企業）】

設問８　専門高校との連携に当たって、何が必要だと思いますか。【複数回答可】

項　目	回答数	回答者数に対する割合
1　高校側の情報やニーズの把握	110	49%
2　担当教員との信頼関係やコミュニケーション	108	48%
3　スケジュール調整における高校側の柔軟性	59	26%
4　生徒の意欲や態度	90	40%
5　生徒の安全管理体制	37	17%
6　連携による効果の検証と見える化	48	21%
7　連携に携わる人材の確保	95	42%
8　連携に充てる時間の確保	68	30%
9　経費（材料費や旅費等）の確保	16	7%
10　高校側が用意する謝礼	2	1%
11　企業側の広報や採用活動におけるメリット	52	23%
12　高校との連携を社会貢献の一環として位置付けること	49	22%
13　その他	5	2%

回答者数：224名

専門高校との連携に当たって必要だと思うものは、「高校側の情報やニーズの把握」と回答した割合が約 49%と最も高く、次いで「担当教員との信頼関係やコミュニケーション」が約 48%、「連携に携わる人材の確保」が約 42%となっている。

（３）－７【建議案 p109 設問7（企業）】

設問７　連携する上での課題や、連携に躊躇する理由として、当てはまるものは、次のうちどれですか。【３つまで回答可】

項　目	回答数	回答者数に対する割合
1　高校側のニーズが分かりにくい	61	27%
2　高校側の担当教員とのコミュニケーション	29	13%
3　高校側が企業の状況を理解していない	23	10%
4　高校側の都合に合わせたスケジュール調整	63	28%
5　生徒の意欲や態度	60	27%
6　生徒の安全管理	33	15%
7　連携による効果を実感しにくい	41	18%
8　連携に携わる人材を確保できない	56	25%
9　連携に充てる時間を確保できない	42	19%
10　交通費や経費などの確保が難しい	10	4%
11　謝礼が支給されない	0	0%
12　近隣に連携できる専門高校がない	31	14%
13　その他	22	10%

回答者数：224名

専門高校と連携する上での課題や、連携に躊躇する理由として、「高校側の都合に合わせたスケジュール調整」と回答した割合が約 28%と最も高く、次いで「高校側のニーズが分かりにくい」と「生徒の意欲や態度」が約 27%となっている。

（３）－８【建議案 p96 設問8（教員）】

設問８　高校と企業等が連携する上での課題として、当てはまるものは、次のうちどれですか。【３つまで回答可】

項　目	回答数	回答者数に対する割合
1　連携可能な企業等の情報が得にくい	50	29%
2　企業の担当者とのコミュニケーションが円滑に進まない	11	6%
3　企業等が学校の状況を理解していない	31	18%
4　スケジュール調整が難しい	92	54%
5　生徒の意欲や態度に不安がある	52	30%
6　生徒の安全管理に不安がある	4	2%
7　連携による効果を実感しにくい	10	6%
8　連携に充てる教員や時間を確保できない	70	41%
9　交通費や経費などの確保	86	50%
10　近隣で連携できる企業等がない	8	5%
11　その他	5	3%

回答者数：171名

高校と企業等が連携する上での課題として、当てはまるものは、「スケジュール調整が難しい」と回答した割合が約54％と最も高く、次いで「交通費や経費などの確保」が約50％、「連携に充てる教員や時間を確保できない」が約41％、「生徒の意欲や態度に不安がある」が約30％となっている。

（３）【産業界との連携】“今後の提案”

１　つながる機会の創出

２　持続可能な仕組みづくり

３　見直しや発展的解消を可能とする
　　現場裁量

本道の課題

学科の統廃合と、地域で唯一の高校というパターンは今後も続くと予想される

学科縦割り型の学校運営はすでに限界がきている

“やむを得ない統廃合“という現実を超えて、戦略的な取り組みが必要

例えば

・高校入試制度の弾力化や多様化

・施設設備への投資

・広報の予算化や、裁量予算制度など、学校現場の裁量拡大

・地域人材や、産業人材の活用

など

まとめ

産業、地域、学校とが共同して、新しい時代を見据えた、

新しい教育をつくるという発想が必要

先駆的な実践教育を行う専門高校は、

その新しい教育づくりの拠点となり得る

共　創

（Co-creation）